

塾生による

リレー・エッセイ(6)

福祉時代を生きる



川上 道子
(連塾3期生)

2000年に介護保険制度がスタートして、あっという間に11年が経過しました。介護の社会化をうたい文句に創られた制度ですが、一番大きな変化は、「介護」という言葉が国民の多くの方に周知されたことではないでしょうか。多くの方が、『介護する』『介護される』ことを自分の問題として考える機会が増えてきています。

私は臨床看護や看護教育の場に25年程身をおき、現在の中国短期大学専攻科で保育士や介護福祉士の教育に携わって13年が経過しています。介護に関わるようになって改めて思うことは、「人間が人間を支えること」の意味についてです。日本古来の家族制度が崩壊しつつある今、血縁・地縁といった連がりだけでは生きにくくなっています。社会的サービスとしての「介護」を基軸として、様々なネットワークづくりが必要になってきています。その要にあるのは、**介護支援専門員(ケアマネジャー)**であり、**介護福祉士**でしょう。利用者の生活状況に合わせた能力が求められ、様々な資格が考えられています。

認知症の専門的理解や医療やリハビリの専門性、その他、生活に関する多様なニーズに応えるためです。しかし、どのような資格が求められたとしても、「笑顔で迎えてくれる人」「安心して一緒に居たい人」の存在は不可欠だと思います。この人と出会えてよかったと思える、そんな人材を育成したい念じている今日この頃です。



「食事介助」の授業風景

事務局から



この度の巨大地震の甚大なる被害に対し、NPO法人連塾では、3月20日、他の2団体と共に、岡山駅東口での街頭募金に参加いたしました。駅のエスカレーター昇降口の行き交う人たちの多くの方々が、

募金箱に善意の義援金を投入してくださいました。参加された理事長をはじめ、十数名の塾生の皆様ありがとうございました。募金は日本赤十字社に持参し、被災地への送付を依頼しました。支援活動は、今後も継続したいものです。来年度は、「京山地域創生協議会」の活動が重きをなしてきます。このことは、当塾の主眼である「人づくり」にさらにグレードアップする方向性でということですが、当塾本体としても地域創生にとりかかるということでもあります。その意味で一層の結集が求められます。ご協力、よろしくお願い致します。(連塾1期生 尾藤 寿実)

熙連会主催

大掃除・餅つき・そば打ち大会

H22年12月30日(土)



くるくる丸めるのも難しい!

年末の恒例行事となりました熙連会(連塾・健塾同窓会)主催の大掃除・もちつき・そば打ち大会が、暮れの12月30日に開かれました。ハウスの一年の汚れを落とし、餅をつき、そばを打って、この一年の連塾活動のよい締めくくりができました。この後、聴講生の川井君が楽しいトランプの小品を披露してくださいました。一昨年の、藤井清治さん(連塾1期生)の爆笑小品のことを懐かしく思い出しました。卯年もよい一年になりますように!

塾生ニュース

おめでとう!

事務局長の尾藤さんが倉敷市文学賞で優秀賞!

連塾1期生で事務局長の尾藤寿実さんが、「倉敷市民文学賞」(小説部門)で一昨年に引き続き、2度目の優秀賞を獲得されました。前回は時代小説でしたが、今回は現代物で、その題名は、「喪主」です。本当におめでとうございます!これからも「大賞」目指して、大いに頑張られるとか。



編集後記

地球温暖化が信じられない位に厳寒だった冬を過ぎ、やっと春の兆しが見え始めた3月11日の午後、巨大地震と大津波が東日本を襲いました。死者・不明者ともに戦後最大の被害となり、東北地方沿岸は壊滅的な打撃を受けています。犠牲となられた方々のご冥福を心からお祈りいたしますとともに、被災された皆様に衷心より御見舞い申し上げます。この国家的苦難を日本人の総力を上げて必ずや近い将来の復興に導きたいものです。どんな小さな事からでも、災害支援につながる行動を何か起こしていきましょう!(連塾1期生・角田みどり、田口琢磨)

特定非営利活動法人(NPO法人)

連塾ニュース

第6号

平成23年3月26日発行

(所在地: 〒700-0015 岡山市北区京山1-2-21
☎086-251-4615)

編集担当
角田みどり・田口琢磨

躍進する「連塾」に期待すること

理事長 松畑 熙一

去る3月11日に発生いたしました「東日本大震災」でお亡くなりになられた皆様のご冥福を心よりお祈り致します。また、被災者の皆様に衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。その際、私たち一人一人が考え、行動すべきことは何でしょうか。募金活動や物質的援助を始め、「祈り」の重要性を認識し、日々の生活において節電、節食など自然を大切にしながら生きていかねばなりません。「東日本地域」だけの問題では決してないこと、地球規模の人類全体の問題であるとともに、自分にとっての意味を掘り起こし、今後の生活や諸々の活動に生かしていきたいと思えます。

このような重大局面にあって、基本的に何を大切に、何を目指して進んでいくべきでしょうか。私たちは物に恵まれた便利な世の中を過ごさせていただいているが、日々の生活の基盤の見直しが必要課題となっています。有難いことに大自然の恩寵に生かされて生きていることを思い、自然に根差した人間本来の生き方(オーガニック・ライフ)を重視したいものです。

NPO法人「連塾」は、あくまで「自分づくり・人づくり」が原点であり、「意識の向上と魂の深化」を目指して「自分づくり」をしっかりすることがすべ

ての出発点であることを再確認し、一時的なイベント実施に流されないようにしたいものです。

来年度の具体的な活動としては、「京山地域創生協議会」の活動を通して「新しい公共づくり」を推進することを中心としながら、各種地域創生活動を協働して展開したいと願っています。

「新しい公共」とは、従来の行政(官)中心のタテ系列の公共ではなく、「公共」の主体として「住民、NPO、企業」をも含み、これらがヨコに結び直された「新しい水平関係」を意味しています。この水平関係は、生活を住民の手に還元し、本来の公共を住民中心とする協働によって創生しようとするものです。

「新しい公共」は、日常の住民主体の活動を通して地域から全国・世界へと発信する「ローカル社会」の実現を目指すもので、今後の「連塾」活動の基本方向でもあるのです。



「『連語』を生きる①」出版祝賀会を開催しました



「『連語』を生きる①」

2月12日(日)12時より、ホテルグランヴィア岡山において、この度、松畑理事長が吉備人出版より刊行されました「『連語』を生きる①」の出版をお祝いする会が、理事長が会長や顧問を務められている等の関係6団体の有志により開催されました。日頃の理事長の交友関係の幅の広さ、ご指導を仰ぐ方々の多さから、82名のご出席となり、大盛況の会となりました。

世話人を代表して、吉川昌宏氏(吉備学会)の開会挨拶

に続き、来賓の方々のご祝辞、祝電披露、花束・記念品料の贈呈がありました。

次に、松畑理事長より、「最近3年間の生き様」と題してのご講話をいただき、ある病いを克服されつつある体験談、そして「自然人間力」「有難うする心」のお話に、会場は静まりかえって聞き入りました。いつもの美声も披露され、「癒された」という方も...



松畑理事長の講話

この後、塾生によるギター演奏、フラダンスの余興、出席者によるスピーチが相次ぎ、楽しい雰囲気の中で会が進行されました。「『連語』を生きる②」の発刊を楽しみにいたしましょう。

「新しい公共づくり」テーマにシンポジウム 「第2回 地域創生フォーラム」の開催

平成22年12月19日(日)・岡山県生涯学習センター

連塾では昨年度、創設5周年を記念して「第1回地域創生フォーラム」を開催いたしました。今年度も引き続き、「第2回地域創生フォーラム」を岡山県生涯学習センターにおいて開催することができました。今回は、予約した会場の都合で、案内状の配布先を少し制限したために、100名を超えた昨年度よりやや少ない約80名という参加でしたが、内容は一段と熱気に溢れた討議が展開され、大きな成果を上げることができました。今回も、塾生による地域創生実践活動の発表と人づくり・まちづくりの活動を熱心に展開していただけるNPO法人あるいは活動団体の代表者の方々(企業関係者、NPO法人代表、まちづくりアドバイザー、地域住民代表者)によるシンポジウムという内容でした。

特に、今回のシンポジウムでは、時代の流れに先駆けて『新しい公共』づくりをテーマに取り上げ、まず松畑理事長より「新しい公共とは何か」の基調提案をしていただいた後、各分野からのシンポジストに「新しい公共づくりで大切なことは？」「新しい公共づくりの課題は？」などの視点で発信していただきました。会場フロアからも熱心なご質問やご意見が相次ぎ、非常に充実したフォーラムになりました。今回も反省点や課題を明らかにし、次回につなげたいと考えています。

塾生による実践発表 (3名の塾生がそれぞれのフィールドで取り組んだ実践を発表)

① 「子どもたちが英語を体験し 使える場を提供する試み」 ～一日留学体験inおもちゃ王国～



◆子どもたちが英語を使う体験の場を設定し、一日で留学する疑似体験で英語に浸れる機会を提供した研究実践について、TVニュースの映像も紹介しながら発表しました。

大橋 典晶 (連塾2期生)

② 「奥山生態系保全・復元を目指す 日本熊森協会岡山県支部の取組」



◆日本熊森協会岡山県支部の設立の経緯や趣旨、支部活動のねらい等を、支部長である立場から発表し、日本の森を再生し、奥山に動物が棲める環境づくりの大切さを訴えました。

平井 芳和 (連塾4期生)

③ 「残そう!岡山県立児童会館! 住民主体で取り組む存続運動」



◆財政難を理由に県が廃止を打ち出した岡山県立児童会館の存続と有効活用を県に訴え、地域住民が中心となって展開した市民運動の詳細を報告しました。

竹市 昌之 (連塾6期生)



熱心に討議されたシンポジウム

「新しい公共づくり」は、住民主体で展開されるが行政と対立するのではなく、うまく連携出来る部分は行政と手をつなぐことも大事というご意見、リーダー養成が益々重要というご意見も出されました。

シンポジウム

テーマ:
「新しい公共」づくりによる地域創生

コーディネーター：松畑熙一理事長
シンポジスト
◆松田 久氏 (両備ホールディングス(株)代表取締役副社長)
◆竹内 守善氏 (香川県情報発信アドバイザー)
◆新谷 雅之氏 (NPO法人まちづくり推進機構岡山代表理事)
◆高原 久幸氏 (岡山市北区伊島学区連合町内会長)

《名司会のお二人》 《お屋のアトラクション》



岸康子 (連塾6期生) 野島淑子 (連塾2期生) 千房新太郎 (連塾2期生) 竹内弘海 (健塾2期生)

「京山地域創生協議会」が発足しました

コミュニティプラザ連塾 2月2日(水)

岡山県が2010年度末までに廃止を打ち出していた岡山県立児童会館の存続については、「岡山県立児童会館の未来を考える実行委員会」(代表・松畑熙一連塾理事長)が中心となり、約2万名の署名を添えて石井正弘岡山県知事に対し、施設の有効活用を要望した成果が表れました。2013年を目途に耐震工事が実施され、お隣の県生涯学習センターとの一体的活用を推進し、「子ども未来科学館」として、リニューアル・オープンされることとなりました。これを受け、当実行委員会は、「京山地域創生協議会」と名称変更し、新たな目標に向けて再スタートを切りました。皆さん方、ご協力をお願いします。



「京山地区創生協議会」発足の様子

茨城県 県北生涯学習センター より「連塾」視察に 来られました

コミュニティプラザ連塾 2月17日(木)



茨城県
県北生涯
学習セン
ターを運
営する指
定管理者
であるN
PO法人
インパ
クトから、
連塾視察

のご依頼があり、当日は理事が中心となって対応しました。昨年の第5回「人づくり・地域づくりフォーラムin山口」の分科会で、連塾の発表(角田)を聞いてくださったことが視察のきっかけになったのです。視察当日は、松畑理事長から連塾の概要説明に続き、角田連塾1期生がパワーポイントを使用して、「連塾6年間の取組」を説明し、安田連塾3期生が資料を用いて、活動の具体例を紹介しました。熱心な質問が次々に出され、予定の時間を大きく超えました。夜には、別会場に移しての懇親会を開き、「桃太郎鍋」でおもてなしをしました。お互いに以前から交流があったように打ち解け、地域創生やお国柄自慢で盛り上がりました。5人の来訪者の皆さんは、温泉旅館、塗装店、呉服屋などの企業経営主が多く、今秋には、岡山から茨城へ出かける話も出て、再会を期して閉会しました。今回の災害で、皆さんご無事で。

「人づくり・地域づくりフォーラム in 山口」に参加しました

山口セミナーハウス 2月19日(土)～20日(日)

第6回を迎えた「人づくり・地域づくりフォーラムin山口」に連塾から松畑理事長をはじめとし、藤井・千房・横山・安田・菅我・高取・角田の計8名が参加しました。今年で、連続して3回目の参加となりますが、今年は、理事長がパネルディスカッションのパネラーの一人として登壇され、住民主体の地域づくりについて熱く語られました。

1日目は6分科会で24の実践研究発表が行われ、2日目には、パネルディスカッションと講演がありました。講演の講師は、TV番組「何でも鑑定団」でお馴染みの北原照久氏(横浜ブリキのおもちゃ館・館長)で、「夢はかなう、きつかなう」と題してのお話は若き日の夢を抱き続けていけば、必ず叶うという体験談で、大いに元気を頂きました。来年は、2月18日～19日です。是非とも大勢で参加しましょう!



パネルディスカッションの様子

「桃太郎鍋うどん」を 120食 完売しました

西川・野殿橋付近 3月13日(日)

岡山発祥の桃太郎伝説にちなんだ食材を生かし、地産地消で新鮮な岡山特産の食材を使用して作る「桃太郎鍋」が誕生してから、すでに5年目を迎えます。この度、この鍋に2色のうどん(トマト味、抹茶味)を入れた「桃太郎鍋うどん」が考案されました。



11月6日、「福ちゃんの里ラーメン」においての試作、11月28日の



「名玄」でのお披露目を経て、今回は、西川のイベントに出店したところ、おいしく大好評で、120食が完売となりました。「目指せ、B級グルメ!」という声も上がっています。

「花*緑ハーモニーフェスタin西川」にて張り切る高橋さん(健1)と田口さん(連1)